

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習Ⅱ		池田 恵子 他学内教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(45)	教室・実習室	前期・後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	ステップⅠ. 医療安全に基づいた援助：ヒューマンエラーと医療過誤 ステップⅡ. 複数患者受け持ち多重課題に対し援助計画の立案・実施 ステップⅢ. 割り込み状況下での状況判断・優先度に応じた援助の実施				
到達目標	これまでの学習の中で修得した看護技術を統合し、各看護学で学んだ内容を臨床で実際に活用していくことができるよう臨床実践能力の強化。 複数受け持ち、多重課題、割り込み状況への対処、患者急変時の対応				
事前学習	医療安全・周手術期看護・採血・腰椎圧迫骨折患者の看護、運動麻痺の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	【オリエンテーション】統合演習Ⅱの目的と授業の進め方について ステップⅠ：医療安全、ヒューマンエラー、医療過誤
2・3	ミニストーリー（ヒヤリ・ハット事例）についてグループワーク 医療事故防止啓発ポスター作成・発表・ディスカッション
4	講義：診療の補助に関わる事故：与薬・注射の事故 輸液ポンプ・輸注ポンプによる事故
5・6	転倒事故についてのグループワーク・ロールプレイ
7	講義・演習：医療者間のコミュニケーション（チームの鎖・SBAR）
8	ステップⅡの演習の進め方 ・ 事例提示
9	事例に沿って文献学習
10	行動計画の立案・優先順位の根拠
11	実際に演習した上で行動計画の修正（記録用紙に記載）
12	実際に演習した上で行動計画の修正（記録用紙に記載）
13・14	立案した行動計画をグループ毎に発表
15	演習発表内容についてディスカッション・まとめ
16・17・18・19	ステップⅢ：割り込み状況下での状況判断、優先度に応じた援助の実施
20・21・22	技術試験
23	筆記試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	基礎看護技術、看護技術プラクティス、医療安全ワークブック 他
成績評価の方法	筆記試験・技術試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護研究		寺師 敬子 看護学科教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・情報処理	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。				
学修内容	ケーススタディとは、文献検索、研究計画書の作成、研究論文、抄録の作成				
到達目標	看護過程の客観的な検討、研究論文作成、論文発表、評価				
事前学習	実習記録・患者情報の整理				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	講義：ケーススタディとは何か。事例選択の方法、論文のまとめ方
2	講義：論文の書き方（テーマ、序論、事例紹介、看護の実際）
3	講義：論文の書き方（考察、結論）演習：テーマの選出
4	演習：研究計画書の作成、文献検索
5	演習：文献検索、論文作成（はじめに）
6	演習：論文作成（はじめに、事例紹介）
7	演習：論文作成（看護の実際）
8	演習：論文作成（看護の実際）
9	演習：論文作成（考察）
10	演習：論文作成（考察～結論）
11	演習：抄録作成
12	演習：抄録作成、発表会役割分担、卒論委員会結成
13	演習：抄録作成、印刷、抄録集の作成
14	ケーススタディ発表会
15	ケーススタディ発表会、評価
履修上の要件	1年次：情報科学を履修、パソコン操作の基礎を学習、看護研究の基礎
テキスト、教材、参考書	松元 孚：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 パソコン、プロジェクター
成績評価の方法	出席状況、研究論文、抄録、発表態度
備考	抄録集を作成する。卒業論文として取り組み、発表会で発表する。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論実習		山城 歩 他		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(90)	大島郡医師会訪問看護ステーション 生協訪問看護ステーションあまみ	前期 後期	月～金	8:30～15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	個々の家族を含んだ対象の状況に応じた在宅看護を展開するために必要な知識・技術・態度を学ぶ				
到達目標	<町村保健センター> 市町村保健センターの実習を通して、地域社会の住民への保健サービスを学び、看護の役割を理解する <訪問看護ステーション> 地域で療養する人々やその家族を理解し、在宅看護における看護の機能と役割の実際について学ぶ				
事前学習	地域保健、介護保険等の法律について 在宅看護技術、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、在宅におけるターミナルケア、緊急時の看護等				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～5日目 <市町村実習>	1. 1日目は学内で市町村実習及び訪問看護ステーション実習について教員のオリエンテーションを受ける。 2. 2日目から各市役所、役場での実習を行う。 ・各事業について事前、事後学習レポートを提出 ・各事業に同行・参加し市町村における地域サービスを学ぶ 3. 市町村実習最終日に反省会を行う
6日目～15日目 <訪問看護ステーション実習>	1. 学生は1事例受け持ち利用者の看護過程を展開する 2. ケースカンファレンスを実施する。 3. 受け持ち以外の利用者宅を訪問看護ステーションのスタッフとともに訪問し、訪問看護の実勢を学ぶ。 4. 訪問看護ステーション実習最終日に反省会を行う。 5. 最終日に学内実習にてカンファレンス・リフレクションを行う。
履修上の要件	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ～Ⅲを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項、系統看護学講座 在宅看護論 医学書院
成績評価の方法	在宅看護論実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	各実習施設への通学手段は学生各自で確保しておく 施設の駐車場を利用する場合は事前に施設へ連絡が必要

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合実習		林 なおみ 他		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(90)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して知識・技術態度を統合して看護実践力を身に付ける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 2. 就寝前の患者の状況を知ることにより患者を総合的に理解する。 3. 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。 4. 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める。 5. これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする。 				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～15日目	<p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習内容 <ul style="list-style-type: none"> ①管理実習：看護管理について臨床講義 病棟管理者の役割 ②複数患者を受け持つ看護師のシャドウイング ③複数患者(2名)を受け持つ実習 ④夜間実習1日(13:30～21:30) ⑤夜間実習の振り返り ⑥1日目、11日目、15日目は学内実習 2) 1グループ5名～6名 教員は1名配置 夜間実習は教員は巡回指導 3) 複数受持ち以外のケアは原則として実施しない。 <p>実習記録：実習計画、実習日誌、経過記録、看護管理レポート 他</p>
履修上の要件	<p>領域別実習はすべて履修していることが望ましい 統合演習ステップⅠ・Ⅱは履修していること</p>
テキスト、教材、参考書	<p>実習要項 看護管理、医療安全ワークブック</p>
成績評価の方法	出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	